

歴史と伝統文化の
まち・成田。市内に
は、歴史ある文化財
が多数あります。

人頭形土製品を含む成田市南羽鳥中岫第1遺跡土坑出土品

約5,500年前の集団墓地の副葬品が 国の重要文化財に

3月20日に文部科学省の文化審議会文化財分科会において、南羽鳥中岫第1遺跡(E地点)から出土した人頭形土製品、石製・土製の耳飾り、垂飾り、朱塗りされた土器など20点を国の重要文化財に指定する答申がありました。成田市で考古資料の重要文化財は初めてであり、県内でも3例目となる大変貴重なものです。

平成6年に発掘調査が行われた南羽鳥中岫第1遺跡E地点は、豊住工業団地の北側(現在はゴルフ場)に位置し、今から約5,500年前の19軒の住居と250基の土坑から構成される縄文時代前期の集落址です。

中でも人頭形土製品は全国で初めての出土品で、発見当初から研究者や考古学ファンに注目されていたものでした。人頭形土製品は高さ15.1cm、最大幅13.5cm、厚さは頭頂部で1.6cmほどあり、中は空洞になっています。製作方法は粘土紐を積み上げたのち、ヘラで丁寧に丸く削り出し、頭部を忠実に形作っています。顔面の造形は、高く盛り上がったまゆと真っすぐに伸びる高い鼻が特徴的で、鼻孔も明りょうに表現されています。目の表現は眼球の存在を予想させるようにふっくらとし、横に引いた沈線で閉じた目を描いています。唇は真一文字に結ばれ、耳と頭髪は表現されていません。



死に顔を連想させる人頭形土製品



人頭形土製品の側面

縄文時代、人のかたどった造形物には土偶や土製仮面があります。土偶や土製仮面は集落の中での祈りや祭りに用いられたと考えられますが、人頭形土製品は、ほかの耳飾りなどの出土状況から埋葬者への副葬品としての可能性が大きいと考えられます。また、死者のデスマスクなのか祖先を偲んで作ったものなのか、類例が無いだけにいろいろな解釈が可能でしょう。

中岫遺跡からの出土品は、縄文人の装身や葬送儀礼の実態を復元するうえで大変貴重な資料と考えられます。中でも南羽鳥の縄文人が作製した人頭形土製品の造形力は、見る者を圧倒する見事な芸術品といえるのではないのでしょうか。



重要文化財に指定された南羽鳥中岫第1遺跡の出土品

編集後記

近ごろはだいぶ簡素化が進んだといわれる冠婚葬祭。とはいっても、何かと付き合いは多いものです。いろいろなお祝いやお見舞い、そしてそのお返し等々。ところで市議会議員・市長選挙まであとわずか。こうした付き

合いも地域で生活する上では大切なものですが、選挙となれば話は別です。3ページの「三ない運動」の禁止事項の中には、ごく日常的なものも含まれていますからくれぐれも注意が必要です。